

平成29年度愛知県がんセンター公開講座(第2回)のご案内
「サルコーマセンターとがんリハビリテーション」
= 平成29年7月29日(土)開催 =

< 講師からのメッセージ >

「サルコーマセンター開設」

肉腫（サルコーマ）とは骨・筋肉・神経・血管・脂肪などに発生する悪性腫瘍（がん）の総称です。発生頻度が極めて低く、希少がんと言われていています。専門とする医師が少なく、多くの施設で診断に難渋し“忘れられたがん”とも呼ばれています。そのため適切な診断や治療がされないまま複数の医療機関や複数の診療科を経て当院を受診される方がいます。このような患者さんが迷うことなく速やかに当院を受診し、安心して集学的治療を受けていただくよう、平成28年10月に中部地区で初めてサルコーマセンターを開設しました。

整形外科部 部長 筑紫 聡

「軟部肉腫の薬物療法」

薬物療法は、外科手術や放射線療法と異なり、全身に対する治療です。軟部肉腫に対する薬物療法は、手術前に腫瘍を縮小させたり、再発を抑える目的で行われる場合と再発・転移した腫瘍に対して病気の勢いを抑える目的で治療が行われます。軟部肉腫には、お薬の治療効果が高い腫瘍と効果が高くない腫瘍があります。腫瘍の性質やお薬の効果により、外科手術、放射線療法、および薬物療法を組み合わせる治療が行われています。最近では、軟部肉腫に対して新しいお薬が臨床の現場に導入されています。今回の講義では、軟部肉腫に対する薬物療法の全般について、新しいお薬の話題も含めて解説いたします。

薬物療法部 医長 安藤 正志

「がん患者さんのためのリハビリ」

がん患者さんのリハビリテーションは、現在入院中の限定された患者さんに行っているため、実際に見たり体験したりした人は少ないと思います。そこで、手術前後の体力低下を予防するリハビリ、化学療法や放射線療法などの治療で体力が落ちている人の体力維持を目的としたリハビリなど、がんのリハビリテーションの必要性と内容について説明します。また、症例ごとにどのようなリハビリを行っているかを提示して、がん患者さんだけでなく、一般の人が自宅でも簡単にできる体力維持のリハビリテーションをご紹介します。

リハビリテーション部 部長 吉田 雅博

「がんのリハビリテーションについて」

高齢化社会において2人に1人はがんに罹患するといわれており、がんに対するリハビリテーションの必要性は高まっています。近年、がんのリハビリテーションは手術による術後の合併症を減少したり、抗がん剤治療や放射線療法などによる副作用を軽減する効果があると報告されています。また、進行したがんの患者さんに対しても全身倦怠感や疼痛の緩和にも効果があるとされており、本講演では、がん患者さんに対するリハビリテーションの有用性について、最新の知見を踏まえてお話したいと思います。

名古屋大学医学部保健学科 教授 杉浦 英志